

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月25日

協議会名:北海道離島航路確保対策協議会

評価対象事業名:離島航路に係る地域公共交通確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
羽幌沿海フェリー(株) 羽幌-天売航路	天売島・焼尻島両島と本土とを結ぶ唯一の交通手段で、島民の通院や買い物、両島での公共工事関係者や観光客が主な利用者となっており、閑散期(9月1日～5月31日のGWを除く)においては1日1便、繁忙期(6月1日～8月31日)においては1日最大6便の運航をすることとしている。	運航事業者は羽幌町と協働し繁忙期の始期に合わせ運賃割引を行ったほか、地域住民や観光協会などと地域の味覚を活かしたイベント等を離島で行うなど、関係者が連携し、利用客の増加に向けた取り組みを推進した。	悪天候による欠航があったものの、運航計画に沿って適切に実施された。  A	A 旅客輸送実績は、悪天候による欠航が増加(平成28年度93日、平成29年度108日)したことなどが影響し、目標値38,900人に対し38,343人と、557人下回った。 貨物輸送実績は水産品(タコ・タラ)の漁獲増などにより目標値2,636トンに対し3,719トンと、1,083トン上回った。 運賃収入実績は、旅客(自動車航送運賃含む)が、目標値129,599千円に対し123,495千円と、6,104千円下回ったが、貨物は目標値27,065千円に対し36,195千円と、9,130千円上回っており、合計では3,026千円上回った。 収入が目標値を上回ったことや、経費の節減に努めた結果、欠損額が目標値173,985千円に対し137,513千円と、36,472千円抑制されたことから、目標を達成された。	観光客の誘致や貨物輸送の増加に向け、西蝦夷再興協議会(留萌振興局所管)や羽幌町、羽幌町観光協会などと、自然体験の学習を目的とした利用者の誘致や学生、家族割引の実施、地域の味覚を活かした観光イベントとの連携、フェリー乗船割引特典付きの管内バス乗り放題周遊券(フリー切符)の販売、体験型ツアーの開発・実施などについて、引き続き、十分連携した取り組みを推進する。 その他、運航事業者の取り組みとして、宣伝広告事業などで天売島・焼尻島の魅力を発信、ウェブサイトの充実、旅行代理店と大学などへの積極的な広告展開を行い、利用増を図る。 また、今後一層の経費削減を行い、欠損額の抑制に努める。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月25日

協議会名:	北海道離島航路確保対策協議会
評価対象事業名:	離島航路に係る地域公共交通確保維持改善事業(離島航路運営費等補助事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>羽幌港と焼尻島、天売島を結ぶ離島航路(羽幌～天売航路)は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。</p> <p>本航路は各離島住民にとって、通院、生活物資及びごみ処理、し尿処理車輛の輸送等においてなくてはならない生活の足であり、また、各離島住民は本土の羽幌町の病院や歯科医院へ通院しており、本航路の利用が不可欠となっている。</p> <p>離島住民の人口は平成28年3月現在で焼尻島が209人、天売島が318人で年々減少しており、また、平成28年3月現在で高齢化率が47.8%(焼尻島57.4%、天売島41.5%)と著しく高い状況。過疎化も進行しており、航路を取り巻く環境は厳しいものであるため、事業者が単独で航路を維持していくことは困難であり、その維持には公的支援が必要な状況にある。</p>